

# 算額対決 互いに刺激

## 2中学代表、三井寺で奉納

立命館守山中(守山市)一年生が11日、大津市の三井寺(園城寺)に、自ら考え



た数学の問題を絵馬に書いた「算額」を奉納し、互いの問題を解く「算額対決」に挑んだ。

算額は、江戸時代に発展した日本の数学「和算」の問題や解き方を記した板。学業成就などの目的で庶民が各地の寺社に奉納し、同寺観音堂には1828年(文政11年)に納められた算額が今も残る。

同志社中の生徒が2013年、和算の歴史や算額の内容を知り、185年ぶりに三井寺に奉納。その後、両中学が同寺へ奉納することが恒例となった。

この日も両中学の代表約15人が同寺を訪問。金堂で福家俊彦執事長に算額を手渡し、問題を解き合った。立命館守山中の中森日菜さん(15)は「お寺のお堂

自作の問題を書いた算額を奉納する立命館守山、同志社の両中学生ら(大津市で)

で問題を解くのは初めて。仲間同士で解くのが楽しかった」と喜び、同志社中の荻野遙さん(15)も「難問を自分で作る楽しさも学べた。よりいっそう数学が好きになりそう」と話していた。

両校の算額は観音堂や釈迦堂で掲示され、永久保存される。